

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

150号 2022年11月15日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局 千葉市中央区要町2-8 DCC会館内 Tel 043-222-7207 nationwidemovement@yahoo.co.jp

階級的労働運動再生へ職場・地域から新たな一歩を！

全国から2200人 11・6労働者集会を開催

解雇撤回署名を集め12・23東京地裁へ大結集を



日比谷野外音楽堂で11月6日、関西生コン支部、港合同、動労千葉、国鉄闘争全国運動、改憲・戦争阻止！大行進の5団体の呼びかけで「全国労働者総決起集会・改憲阻止！1万人大行進」が開催されました。今年3月3日の呼びかけで始まった11月労働者集会の25回目の集会となりました。また3年ぶりに韓国民主労組ソウル地域本部の代表団など韓米の労働者が参加する国際連帯集会ともなりました。2021年は、ウクライナ戦争の2月開戦、3・11フクシマ闘争、5月の日米戦争会議粉砕闘争、8・6ロシマ-8・9ナガサキ闘争、安倍国葬粉砕闘争などを闘い抜き、各産別・地域・職場の各拠点で闘い抜いて全国から2200人が結集しました。



久留里・房総線の廃線化を許すな！ 動労千葉が12月4日に上総地域集会

国交省は今年7月、地方の鉄道廃線化に向けた提言を発表しました。JR各社は「廃線対象線区」の収支を発表しました。

千葉では、久留里線・鹿島線と内房線・外房線の一部が挙げられ、特に久留里・上総亀山間は「収支率最悪」と悪宣伝されています。JR東日本は「すでに地域との話し合いを始めた」と発表しています。久留里線（木更津駅・君津市の上総亀山駅を結ぶ）が廃線となれば、内房線や外房線を含めた廃線化につながります。

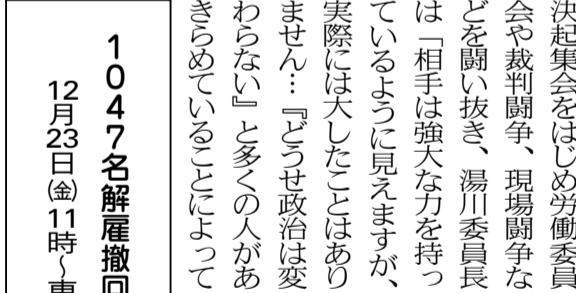
共に反対の声を 地域にとっては生活も観光も大打撃を受ける重大問題です。 12・4上総地域集会 日時 12月4日(日) 13時30分 場所 上総公民館(上総地域交流センター) 君津市久留里市場192-5(JR久留里駅前すぐ)



今日の戦争や労働者階級をめぐる激動的な情勢の中で、世界の労働者の闘いと連帯して11・6集会を実現したことの意義は決して小さくありません。2月の国鉄集会で3労組は、11月労働者集会の飛躍を期して



「共同アピール」を発しました。①関生支部弾圧、JR「労組なき社会化」攻撃粉砕の闘いに全国民の力を結集すること、②新自由主義を終わらせる闘い、③戦争反対の闘い、④国境を越えた労働者の国際連帯の発展――の



4つを柱とするアピールに全国の労働組合や諸団体・個人が賛同して、さまざまな議論や実践を通して労働運動をめぐる困難な状況を突破して全国から結集しました。

1047名解雇撤回！第12回行政訴訟 12月23日(金)11時～東京地裁507法廷(10時集合)

延命しているに過ぎない。今こそ労働組合の出番です」とトメッシーを寄せました。港合同の木下執行委員は「今年の集会は戦時下の集会となった。日本がこの戦争に関わり中

1047名闘争の旗 11月労働者集会の土台でもある国鉄1047名解雇撤回闘争について、動労千葉の中村委員長は、国鉄分割・民営化の真実を暴き出す闘いとしてJR東日本の深澤社長と国鉄改革3人組の最後の生き残りである井手を法廷に引きずり出そうと呼びかけました。

主人公であり、歴史をつくるのは労働者だ。すべての力を結集し新たな一歩を」と呼びかけました。3労組の訴えに続き、賛同団体として愛媛県職員労組が自治体労働者の戦争反対と戦争協力拒否を呼びかけました。日教組奈良市は、戦争が始まった時代の中で闘う教育労組を甦らせる闘いが広範な労働者と結びつく時代が来た」と提起しました。

北海道の浅川雅己・札幌学院大学教授は、北海道における廃線化との闘いや関生支部支援を訴え、北海道における労働運動再生の展望を示しました。

動労千葉の関委員長は「労働運動の変革は時代に求められている最先端の変革。社会の

(裏面に続く)

労働組合こそが反戦闘争の中心に

■国鉄闘争全国運動呼びかけ人の発言から

●浅川雅己さん(札幌学院大学教授)

北海道での鉄道、国鉄問題と関与支援について報告させていただきます。JR北海道研究会で活動もしています。新自由主義の一つの着火点となった国鉄分割・民営化が地域の生活破壊の非常に大きな柱になっている。鉄道は軍隊や軍事物資を運ぶためにあるのではなく、地域住民の足として、地域の生活の一つの柱として立て直されなければならぬ。北海道が全国の悪しき先例にならないように、この策動をはね返したい。

関与的な産別労働運動を全国に広げるために北海道でも闘っていく決意です。

●葉山岳夫さん(動労千葉顧問 弁護団長)

いま闘われている裁判闘争は分割・民営化を根本的に批判する闘いです。かつて中曽根は「分割・民営化で国労と社会党をつぶして、お座敷を片つけて床の

(表面からの続き) 行われました。

国際連帯では、韓国民主労総ソウル地域本部の5人が登壇し、イヒョンミ首席副本部長が「新自由主義と軍国主義に立ち向かう国際連帯が3年ぶりに再会」とあいさつ。集会後には「本当に多くを学ばせてもらった。連帯の尊さを学んだ」との感想を寄せていただきました。

間に新憲法を安置する」とほざきました。この野望はいまだに断固として阻止されています。

12月23日の口頭弁論期日に証人調べを採用するか否かの決定を裁判所が出します。井手正敬、深沢祐二らを証人として取り調べる要求をしています。裁判闘争は勝利まであと一歩まで来ました。共に闘いましょう。

●高山俊吉さん(改憲・戦争阻止！大行進呼びかけ人)

ウクライナ・米口戦争のただ中で、さらに日本が再びの中国侵略戦争に向けて一斉にその準備を強化しているもで行われる反戦集会です。このような集会はこの集会のほかにないことをしっかりと確認したい。誰が戦争を起こすのか、それを止



めるのは誰かをつかむ。この二つのことがどうしても必要で、それが有効だと言いたい。この情勢を受けてどう。各部署、各学園、労働現場で闘っている多くの仲間が、私たちのすぐそばにいてに深い確信を持つ。国際連帯の力を固め、核戦争・世界戦争に向かわせないための資本主義・帝国主義を打倒する闘いに、私たちは腕を組み肩を組んで闘いぬこう。

●宮城盛光さん(沖縄・元北中 城村議)

沖縄の現状は戦時下と言って

●国鉄1047名闘争

●中村仁さん(動労千葉協議団)

自分たちの決断は間違いでな

らの訴えも決定的でした。

国際連帯から20年

この1年間、階級的労働運動の努力を継続し、新自由主義の大崩壊と戦争情勢と対決し抜いて全国から2200人が集まってきた意義を改めて確認したいと思

もおかしくない状況。私たちはベトナム戦争と70年闘争の中で基地労働者の大量解雇に対する解雇撤回・基地撤去を先頭に二つのゼネストを闘いました。

このことは必ず労働者の怒りと階級的決起を生み出します。階級的労働運動を甦らせ、辺野古新基地建設阻止、すべての軍事基地を撤去し、日米安保と戦争の根源である帝国主義を打ち倒しましょう。

●金元重さん

25周年を迎えた11月労働者集

●織田陽介さん(動労千葉を支援する会事務局長次長)

国鉄分割・民営化は新自由主義の出発点であり、いま若者が非正規職の現実苦しめられる出発点です。これが「時効」で片付けられてはいけません。

20年です。コロナをめぐる状況は予断を許さないですが、来年は国際連帯のグレードを上

来年は国際連帯闘争の開始か

会を成功裏に成し遂げたことをみなさんと共に喜びたい。今年

もう一点、国際連帯が復活し、韓米から力強いアピールをしてくださいました。12日のソウル集会には動労千葉の代表団が行きます。東京ソウル国際共同行動が復活します。今年の集会はそういうことを成果として確認したい。

●織田陽介さん(動労千葉を支援する会事務局長次長)

国鉄分割・民営化は新自由主義の出発点であり、いま若者が非正規職の現実苦しめられる出発点です。これが「時効」で片付けられてはいけません。

12月23日の裁判に向かって全力で署名に取り組みたい。

自らの職場で国鉄署名を集めよう。国鉄闘争は日本労働運動の歴史そのものです。再生に向かっている大きな結果軸です。自分たちの労働組合をどうしよう労働組合にしていくべきか、この話が仲間と一緒にできる。何より改憲阻止闘争を本場に発展させていく先頭に労働組合が立つ力になると思います。

自分たちがウソまで言っている雇用延長を拒否しておい

「JR東・CTSは65歳以降も雇用せよ!」、労働委員会・裁判闘争に結集を

JR東日本は20年に及ぶ外注化によって鉄道を維持する要員の確保ができない状況になっています。JR千葉鉄道サービス(CTS)では厳しい労働条件のため若手社員が次々転職し、さらに65歳大量退職がこの事態に拍車をかけています。高齢者雇用安定法が改定され70歳雇用の企業努力義務となつていきます。またグループ会社での雇用延長は慣例として行われてきました。こうした状況に踏まえ動労千葉は希望者については70歳までの雇用延長を求めました。

管理者だけ65歳以降も雇用延長

しかし、JR東日本とCTSは65歳以降の雇用延長を拒否し続けています。CTSは経営状況などを理由に「管理者も一般社員も例外なく」と言って雇用延長を拒否してきました。ところが実際には、南船橋事業所長などの管理者だけはこっそり雇用延長していたことが明らかになったのです。

動労千葉は10月21日、「65歳以降の雇用延長」を求めてCTSと団体交渉を行い、管理者だけ雇用延長していた問題を追及しました。会社は虚偽回答について「もう謝った」「不誠実と言われる理由はない」と居直りました。これに対して組合は「口先で謝って済む問題ではない。去年の時点に戻してやり直せ」「何人の労働者が雇用延長をあきらめて辞めていったと思っているのか」と厳しく断罪しました。

雇用延長がなされなかった当該組合員を先頭とする怒りに圧倒され、あろうことが雇用延長を拒否された当該組合員に対して「そもそも部外者がなぜこの場に居るのか」との暴言を吐いたのです。

自分たちがウソまで言っている雇用延長を拒否しておい、その本人に向かって「部外者」とはよくも言えたものです。組合員の怒りを前に会社は回答不能となり、一度退席して、その後には謝罪しましたが、ここで団体交渉は中断となりました。この暴言こそ、65歳以降の雇用延長拒否の会社の真の狙い、労働組合を嫌悪するCTSの本音が暴露されています。

動労千葉は、65歳以降の雇用延長を求め、団体交渉や労働委員会、裁判などを一

労働委員会 12月26日(月)11時
千葉県労委(県庁内)
行政訴訟 1月18日(水)11時
千葉地裁

